

塩 竈 市 立 病 院 事 業 会 計

I 予算の執行状況

1 収益的収入及び支出

1) 収 入

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第24条第3項の規定による支出額に係る財源充当額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	執 行 率
病院事業収益	3,128,598,000	0	2,826,788,786	△ 301,809,214	90.35
医 業 収 益	2,804,532,000	0	2,482,991,472	△ 321,540,528	88.53
医 業 外 収 益	323,066,000	0	343,411,507	20,345,507	106.29
特 別 利 益	1,000,000	0	385,807	△ 614,193	38.58

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支 出

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	決 算 額	翌 年 越 度 額	不 用 額	執 行 率
病院事業費用	3,126,539,000	2,824,366,473	0	302,172,527	90.33
医 業 費 用	3,071,992,000	2,784,079,453	0	287,912,547	90.62
医 業 外 費 用	47,433,000	33,173,769	0	14,259,231	69.93
特 別 損 失	7,114,000	7,113,251	0	749	99.98

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

① 収益的収入

予算現額3,128,598,000円に対し、決算額2,826,788,786円で、執行率90.35%となっている。

② 収益的支出

予算現額3,126,539,000円に対し、決算額2,824,366,473円で、執行率90.33%となり、302,172,527円の不用額が生じ決算されている。

[主な不用額] ・給 与 費 172,852 千円 (手当等 85,776 千円、給料 43,105 千円)
 ・材 料 費 66,646 千円 (薬品費 58,103 千円、給食材料費 6,513 千円)
 ・経 費 44,349 千円 (委託料 15,458 千円、修繕費 10,981 千円)
 ・雑 損 失 12,674 千円 (その他雑損失 12,674 千円)

2 資本的収入及び支出

1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の繰越額 に係る財源充当額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	執 行 率
資本的収入	101,788,000	0	94,588,000	△7,200,000	92.92
他会計補助金	57,788,000	0	57,788,000	0	100.00
企業債	44,000,000	0	36,800,000	△7,200,000	83.63

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の規定 による繰越額	決 算 額	翌 年 度 繰 越 額	不 用 額	執 行 率
資本的支出	160,838,000	0	150,469,431	0	10,368,569	93.55
建設改良費	51,474,000	0	41,106,395	0	10,367,605	79.85
企業債償還金	102,864,000	0	102,863,036	0	964	99.99
長期借入金 償 還 金	6,500,000	0	6,500,000	0	0	100.00

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

① 資本的収入

予算現額 101,788,000 円に対し、決算額 94,588,000 円で、執行率 92.92%となっている。

② 資本的支出

予算現額 160,838,000 円に対し、決算額 150,469,431 円で、執行率 93.55%となっている。

建設改良費は、施設購入費として 28,844,640 円、施設改良費として 8,786,992 円、リース資産購入費として 3,474,763 円である。施設購入費の内訳は超音波画像診断装置購入（契約額 13,319,640 円）、3次元眼底像撮影装置購入（契約額 6,404,400 円）等、施設改良費の内訳は5階病棟ナースコール更新工事（契約額 4,428,000 円）等である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 55,881,431 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 2,794,532 円、当年度損益勘定留保資金 51,803,746 円、過年度損益勘定留保資金 1,283,153 円をもって補てんしている。

II 経営成績

平成 27 年度から令和元年度までの経営成績は、次表のとおりである。

消費税を除いた本年度の収益的収支は、1,086,164 円の純利益となって決算されている。

なお、以下の計数については、消費税を除いたものである。

1 総収益と総費用

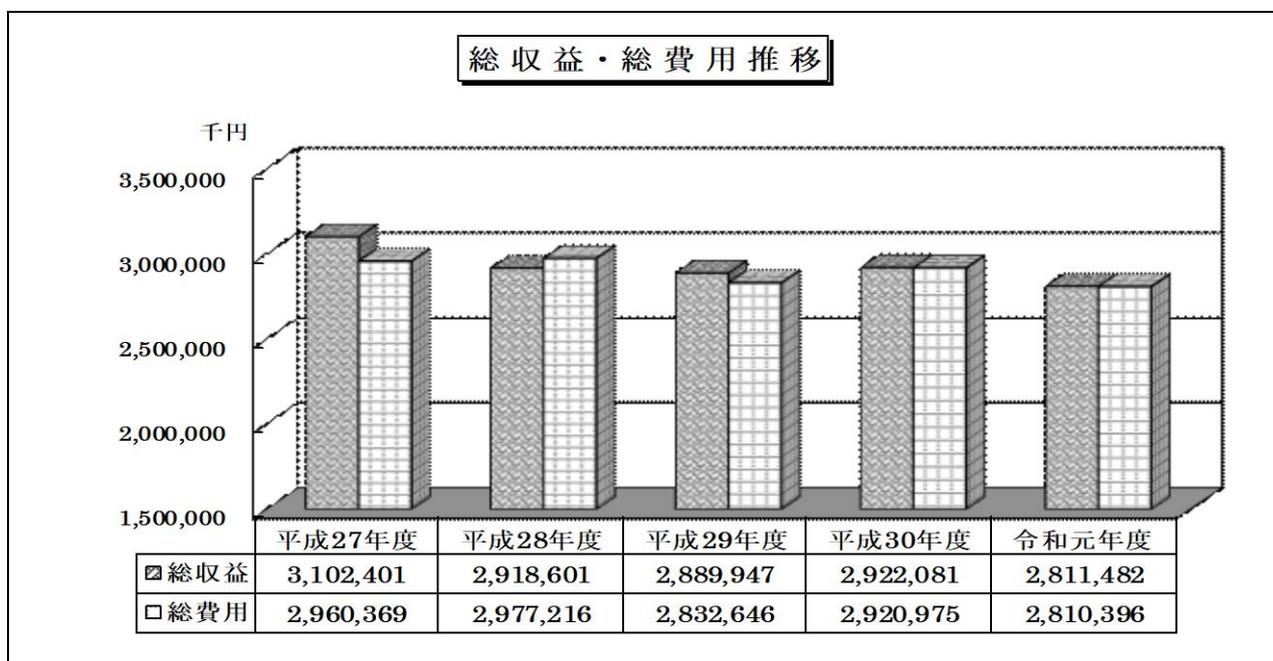
総収益・総費用すう勢比率表

(単位:円、%)

区分 年度	総 収 益		総 費 用		収支差引額 (A) - (B)	収支比率 (A) / (B)
	金 額 (A)	すう勢比率	金 額 (B)	すう勢比率		
平成27年度	3,102,400,936	100.0	2,960,368,766	100.0	142,032,170	104.8
平成28年度	2,918,601,332	94.1	2,977,216,072	100.6	△ 58,614,740	98.0
平成29年度	2,889,947,432	93.2	2,832,645,669	95.7	57,301,763	102.0
平成30年度	2,922,080,739	94.2	2,920,975,001	98.7	1,105,738	100.0
令和元年度	2,811,482,096	90.6	2,810,395,932	94.9	1,086,164	100.0

(注) すう勢比率は 27 年度を基準年度とする。

また、平成 27 年度以降の総収益、総費用の推移を図で表すと以下のとおりである。



本年度の総収支の状況は、平成 27 年度を比率 100 としたすう勢比率で見ると、総収益で前年度と比べ 3.6 ポイント下回った 90.6%となり、総費用は 3.8 ポイント下回った 94.9%となっている。

また、収支比率は前年度と同じ 100.0%となり、収支差引では前年度より 19,574 円減の 1,086,164 円の純利益となった。

2 収 益

次に収益の内容を前年度と比較してみると次表のとおりである。

収 益 比 較 表

(単位:円、%)

年 度 区 分		令 和 元 年 度		平 成 30 年 度		対 前 年 度 比 較	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	増 減 額	増 減 率
医 業 収 益	入 院 収 益	1,502,240,420	53.4	1,436,054,366	49.1	66,186,054	4.6
	外 来 収 益	631,127,071	22.4	626,119,422	21.4	5,007,649	0.8
	そ の 他 医 業 収 益	335,777,804	11.9	329,132,981	11.3	6,644,823	2.0
	計	2,469,145,295	87.8	2,391,306,769	81.8	77,838,526	3.3
医 業 外 収 益	他 会 計 負 担 金	132,115,000	4.7	336,099,000	11.5	△203,984,000	△60.7
	他 会 計 補 助 金	102,708,000	3.7	109,392,000	3.7	△6,684,000	△6.1
	患 者 外 給 食 収 益	666,824	0.0	615,016	0.0	51,808	8.4
	そ の 他 医 業 外 収 益	15,656,959	0.6	16,741,510	0.6	△1,084,551	△6.5
	県 補 助 金	5,978,000	0.2	4,834,000	0.2	1,144,000	23.7
	長 期 前 受 金 戻 入	84,826,211	3.0	63,002,291	2.2	21,823,920	34.6
	計	341,950,994	12.2	530,683,817	18.2	△188,732,823	△35.6
特 別 利 益	過 年 度 損 益 修 正 益	385,807	0.0	90,153	0.0	295,654	327.9
	他 会 計 補 助 金	0	-	0	-	0	-
	計	385,807	0.0	90,153	0.0	295,654	327.9
合 計		2,811,482,096	100.0	2,922,080,739	100.0	△110,598,643	△3.8

収益の内容を前年度と比較してみると、収益合計で110,598,643円(3.8%)の減収となっている。

これは、医業収益の入院収益66,186,054円(4.6%)等で増収となったが、医業外収益の他会計負担金203,984,000円(60.7%)等が減収となったためである。

入院及び外来患者の年延患者数の推移をみると次表のとおりである。

年 延 患 者 数 の 推 移

(単位:人、%)

区 分	令和元年度	平成30年度	対前年度比率	平成29年度	平成28年度	平成27年度
年延入院患者数	44,721	47,640	93.9	50,170	50,593	51,005
年延外来患者数	59,016	58,551	100.8	57,632	57,280	60,121
合 計	103,737	106,191	97.7	107,802	107,873	111,126

本年度の年延入院患者数は44,721人、一日平均122.2人で、前年度より延患者数2,919人、一日平均8.3人の減少。年延外来患者数は59,016人、一日平均243.9人で前年度より延患者数465人、一日平均3.9人の増加となっている。

次に患者一人一日当りの診療収入など本市と年鑑指標をみると次表のとおりである。

区 分	令和元年度	平成30年度	対前年度比較増減	平成30年度年鑑指標
患者一人一日当り診療収入 (円)	20,565	19,419	1,146	25,041
” 入院収入 (円)	33,591	30,144	3,447	46,444
” 外来収入 (円)	10,694	10,694	0	12,696
外 来 入 院 患 者 比 率 (%)	132.0	122.9	9.1	173.4
病 床 利 用 率 (%)	75.9	81.1	△5.2	75.8

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の平成30年度全国平均値である。

本年度の患者一人一日当りの入院と外来の診療収入を前年度と比較すると、入院収入は33,591円で3,447円(11.4%)上回っており、外来収入は10,694円で前年度と同額である。また、年鑑指標と比較すると、入院収入で12,853円(27.7%)、外来収入でも2,002円(15.8%)下回っている。

外来入院患者比率(年延外来患者数÷年延入院患者数)をみると、前年度に比べ9.1ポイント上回っている。これは入院患者の減少によるものである。(審査資料別表2参照)

3 費用

費用比較表

(単位:円、%)

年度 区分	令和元年度		平成30年度		対前年度比較	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
医業費用	2,735,436,547	97.3	2,857,952,373	97.8	△122,515,826	△4.3
医業外費用	67,858,921	2.4	60,818,575	2.1	7,040,346	11.6
特別損失	7,100,464	0.3	2,204,053	0.1	4,896,411	222.2
合計	2,810,395,932	100.0	2,920,975,001	100.0	△110,579,069	△3.8

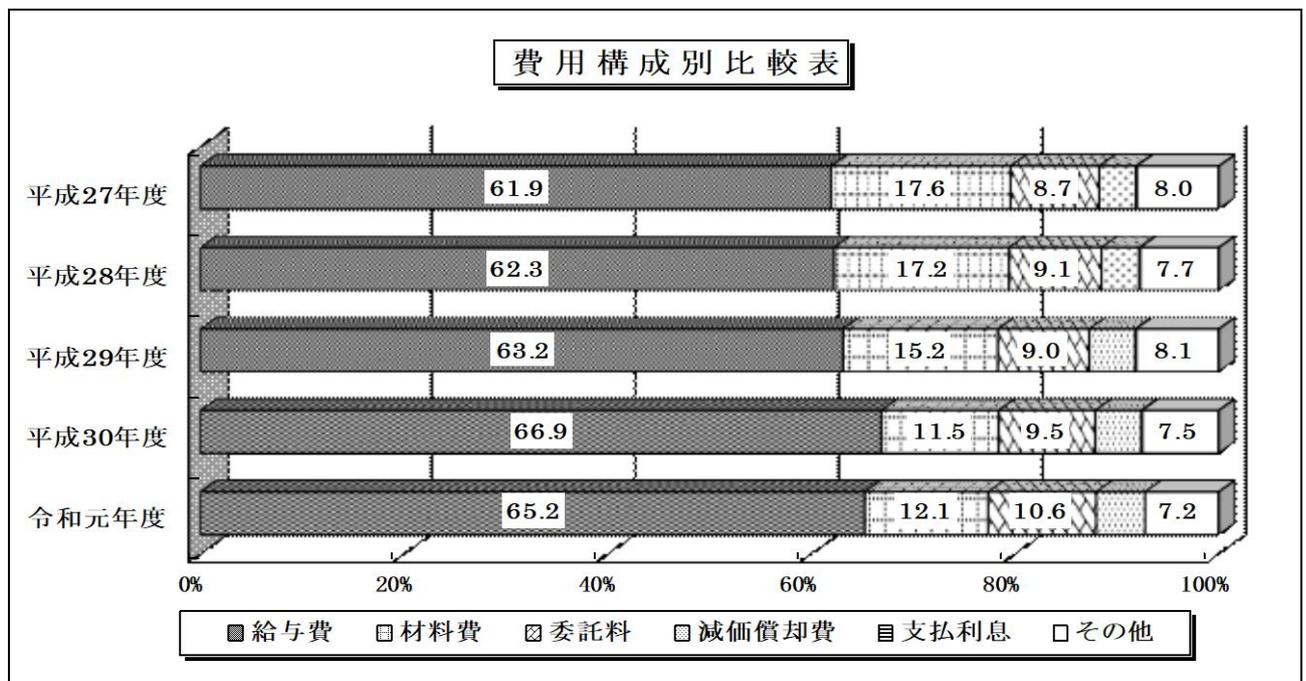
費用を前年度と比較してみると、医業外費用で 7,040,346 円 (11.6%)、特別損失で 4,896,411 円 (222.2%) 増加したが、医業費用で 122,515,826 円 (4.3%) 減少したことにより、費用合計で 110,579,069 円 (3.8%) 減少している。また、医業費用の減少については、賞与引当金繰入額や手当等の減少によるものである。(審査資料別表 3・4 参照)

これを構成別で比較してみると次表のとおりである。

費用構成別比較表

(単位:円、%)

年度 区分	令和元年度		平成30年度		対前年度比較		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
給与費	1,830,996,997	65.2	1,953,226,982	66.9	△122,229,985	△6.3	
材料費	340,138,752	12.1	336,722,071	11.5	3,416,681	1.0	
委託料	298,879,187	10.6	277,185,981	9.5	21,693,206	7.8	
減価償却費	135,543,740	4.8	132,693,834	4.5	2,849,906	2.1	
支払利息	1,355,240	0.0	1,534,949	0.1	△179,709	△11.7	
その他	賃借料	20,726,262	0.7	29,145,063	1.0	△8,418,801	△28.9
	光熱水費	52,313,214	1.9	53,580,780	1.8	△1,267,566	△2.4
	修繕費・ 工事費	11,068,519	0.4	12,473,392	0.4	△1,404,873	△11.3
	その他	119,374,021	4.2	124,411,949	4.3	△5,037,928	△4.0
	計	203,482,016	7.2	219,611,184	7.5	△16,129,168	△7.3
合計	2,810,395,932	100.0	2,920,975,001	100.0	△110,579,069	△3.8	



構成別で前年度より増加した主なものは、委託料で 21,693,206 円 (7.8%)、材料費 3,416,681 円 (1.0%) 等である。一方、減少した主なものは、給与費で 122,229,985 円 (6.3%)、賃借料 8,418,801 円 (28.9%) 等である。

4 経営状況

病院事業の経済性を示す一つの指標として、総資本利益率等を求めれば次表のとおりである。

区分	令和元年度	平成30年度	平成30年度 年鑑指標	算式
総資本利益率 (%)	0.46	0.18	0.60	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{年平均総資本}} \times 100$
総資本回転率 (回)	1.45	1.32	0.58	$\frac{\text{医業収益}}{\text{年平均総資本}}$
医業収益利益率 (%)	0.32	0.13	1.04	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{医業収益}} \times 100$

- (注)
- ・総資本＝負債資本合計
 - ・年平均総資本＝(期首総資本＋期末総資本)÷2
 - ・総資本利益率(経営業績、収益性を示し、比率の高いほど投下資本が効率的に運用されていることを表す)
 - ・総資本回転率(高いほど収益をあげるため総資本を効率的に活用したことを表す)
 - ・医業収益利益率(医業収益に占める経常利益の割合を示す)

総資本利益率は、前年度より 0.28 ポイント上回っている。これを総資本回転率と医業収益利益率とに分解してみると、総資本回転率で 0.13 ポイント、医業収益利益率で 0.19 ポイントそれぞれ上回ったことに起因している。これは当年度経常利益が 4,581,183 円 (142.3%) 増加したことによるものである。

次に経営状態の良否を判断するため、収支比率を求めれば次表のとおりである。

区 分	令和元年度	平成30年度	平成30年度 年鑑指標	算 式
医業収支比率 (%)	90.27	83.67	91.66	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
経常収支比率 (%)	100.28	100.11	98.05	$\frac{\text{医業収益} + \text{医業外収益}}{\text{医業費用} + \text{医業外費用}} \times 100$
総収支比率 (%)	100.04	100.04	97.98	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の平成30年度全国平均値である。

比率はいずれも高いほど経営状態は良好であることを表す。

総収支比率(総体的経営活動の能率を示す)では、年鑑指標と比較しても、2.06ポイント上回っている。これは、医業収支比率(業務活動の能率を示す)で1.39ポイント下回っているが、経常収支比率(経常経営活動の能率を示す)で2.23ポイント上回っていることによるものである。

Ⅲ 財 政 状 態

令和元年度末の財政状態は、審査資料別表5に示すとおりである。

また、資金の変動状況を活動区分別に表示するキャッシュ・フロー計算書は次表のとおりである。

キャッシュ・フロー計算書比較表

(単位:円)

区 分	令和元年度	平成30年度	対前年度比較増減
1 業務活動によるキャッシュ・フロー	△480,448	151,585,716	△152,066,164
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△34,837,100	△38,237,200	3,400,100
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	31,747,620	△103,551,763	135,299,383
資金増加額(1+2+3)	△3,569,928	9,796,753	△13,366,681
資金期首残高	22,162,432	12,365,679	9,796,753
資金期末残高	18,592,504	22,162,432	△3,569,928

(注) 審査資料別表6参照

本年度の資金期末残高は、前年度末より3,569,928円減少し18,592,504円となっている。

その内容を区分ごとにみると、業務活動によるキャッシュは、賞与引当金が減少したことなどにより、前年度より152,066,164円減少し△480,448円となっている。

投資活動によるキャッシュは、前年度より3,400,100円増加し△34,837,100円となっている。これは、有形固定資産の取得による支出によるものである。

財務活動によるキャッシュは、一時借入の返済による支出の減少などにより、前年度より135,299,383円増加し31,747,620円となっている。

なお、年度末現在の不良債務額の推移は、次のとおりである。

(単位:円)

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
年度末不良債務額	△22,080,127	△20,822,646	△512,561	95,725,056	65,146,538
対前年度増減額	△1,257,481	△20,310,085	△96,237,617	30,578,518	△199,969,228
不良債務比率(%)	-	-	-	3.74	2.60

$$\text{※不良債務比率(%)= } \frac{\text{不良債務額}}{\text{医業収益}} \times 100$$

次に、財政状態の良否を示す一つの指標として、財務比率を求めれば次表のとおりである。

財 務 比 率

(単位:%)

区 分	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度 年鑑指標	算 式
流 動 比 率	88.10	82.66	80.71	178.49	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
自 己 資 本 構 成 比 率	50.45	48.80	46.10	30.83	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率	104.74	107.10	107.97	87.25	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$

(注) ・流動比率(短期支払能力を示す) ・自己資本構成比率(経営の安全性を示す)
・固定資産対長期資本比率(固定資産の調達状態を示す)

令和元年度の決算を前年度と比較すると、流動比率で5.44ポイント、自己資本構成比率で1.65ポイント、固定資産対長期資本比率で2.36ポイントそれぞれ改善している。

IV 病院改革プラン数値目標との比較

「塩竈市立病院新改革プラン」の計画期間は平成28年度から平成32年度（令和2年度）までの5年間であり、財務に係る数値を中心にした平成28年度からの決算数値の推移と数値目標との比較は、次表に示すとおりである。

区 分		年 度	平成31年度 (令和元年度)	平成30年度	平成29年度	平成28年度
経常収支比率	(%)	決算数値	100.3	100.1	102.1	98.2
		数値目標	100.0	100.0	101.1	101
		差 額	0.3	0.1	1.0	△ 2.8
医業収支比率	(%)	決算数値	90.3	83.7	89.7	88.5
		数値目標	92.2	92.3	93.3	94.0
		差 額	△ 1.9	△ 8.6	△ 3.6	△ 5.5
職員給与費対 医業収益比率	(%)	決算数値	55.2	61.7	53.3	55.0
		数値目標	53.8	54.0	51.6	52.7
		差 額	1.4	7.7	1.7	2.3
病床利用率	(%)	決算数値	75.9	81.1	85.4	86.1
		数値目標	93.9	93.9	93.9	93.9
		差 額	△ 18.0	△ 12.8	△ 8.5	△ 7.8
1日平均入院患者数	(人)	決算数値	122.2	130.5	137.5	138.6
		数値目標	151.3	151.3	151.3	151.3
		差 額	△ 29.1	△ 20.8	△ 13.8	△ 12.7
1日平均外来患者数	(人)	決算数値	243.9	240.0	236.2	235.7
		数値目標	276.3	276.3	276.3	276.3
		差 額	△ 32.4	△ 36.3	△ 40.1	△ 40.6
入院患者1人1日当り 診療単価	(円)	決算数値	33,591	30,144	29,809	29,820
		数値目標	29,105	29,105	29,105	29,105
		差 額	4,486	1,039	704	715
外来患者1人1日当り 診療単価	(円)	決算数値	10,694	10,694	11,636	12,790
		数値目標	10,800	10,800	10,800	10,800
		差 額	△ 106	△ 106	836	1,990
救急患者数	(件)	決算数値	722	784	878	828
		数値目標	1,000	1,000	1,000	1,000
		差 額	△ 278	△ 216	△ 122	△ 172
経常損益	(千円)	決算数値	7,801	3,220	59,983	△ 52,357
		数値目標	464	656	30,720	28,208
		差 額	7,337	2,564	29,263	△ 80,565
純利益	(千円)	決算数値	1,086	1,106	57,302	△ 58,615
		数値目標	464	656	30,720	28,208
		差 額	622	450	26,582	△ 86,823
一般会計からの繰入金	(千円)	決算数値	475,280	679,005	544,000	499,273
		数値目標	448,704	443,530	427,038	426,020
		差 額	26,576	235,475	116,962	73,253
不良債務比率	(%)	決算数値	-	-	-	3.7
		数値目標	-	-	-	-
		差 額	-	-	-	3.7

塩竈市立病院新改革プランの数値目標を決算数値と比較すると、経常収支比率、入院患者1人1日当り診療単価、経常損益、純利益及び不良債務比率は目標値を達成したが、その他は目標値に至っていない。

V む す び

市立病院事業会計決算の概要は以上のとおりである。

本年度の患者数を前年度と比較すると、入院患者数は2,919人(6.1%)減の44,721人、外来患者数は465人(0.8%)増の59,016人となったが、病床利用率は前年度の81.1%から5.2ポイント減の75.9%となっている。

収益的収支を前年度と比較すると、総収入で110,598,643円(3.8%)減の2,811,482,096円、総支出では110,579,069円(3.8%)減の2,810,395,932円で収支差引1,086,164円の純利益で決算されたが、前年度より19,574円減益となっている。

総収入の減は、医業収益の入院収益66,186,054円(4.6%)、外来収益5,007,649円(0.8%)や医業外収益の長期前受金戻入21,823,920円(34.6%)などが増になったが、医業外収益の他会計負担金203,984,000円(60.7%)や他会計補助金6,684,000円(6.1%)などが減となったことによるものである。

総支出の減は、医業費用の材料費3,416,681円(1.0%)、医業外費用の雑損失7,147,347円(12.3%)などで増となったが、医業費用の給与費で122,229,985円(6.3%)、賃借料8,418,801円(28.9%)などが減になったことによるものである。

資本的収支を前年度と比較すると、総収入では2,751,000円(2.8%)減の94,588,000円、総支出では1,683,540円(1.1%)減の150,469,431円となっており、収支差引の不足額55,881,431円は当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、当年度損益勘定留保資金、過年度損益勘定留保資金で補てんし決算されている。総収入減の主な内訳は、企業債によるものであり、総支出減の主な内訳は、建設改良費によるものである。

また、現在の市立病院新改革プランは計画期間が平成28年度から平成32年度(令和2年度)までの5か年間であり、令和元年度は4年目にあたるが、年度途中で病棟再編を行い、プラン策定当時と状況が異なってきている。このような中だが、改革プランの数値目標と実績を比較すると、経常収支比率、入院患者1人1日当たり診療単価、経常損益、純利益及び不良債務比率は目標を達成し、病床再編などにより医業収支比率も改善されてきているのに対して、病床利用率や1日平均の入院患者数や外来患者数などはまだ目標値を下回っている。新型コロナウイルス感染症の影響など、今後も厳しい経営状況が続くと予想されるので、入院及び外来の患者数の増加等、病院の経営の健全化、安定運営に向けた一層の努力に期待したい。